

# 賀正

## 「財政再建元年」の 確かな歩みを

—夢をつなぐまちに—

平成二十年 元旦

積丹町長 益子清美



町民の皆さん、明けましておめでとございます。

平成20年の新しい年をお元気で迎えのことと心からお喜びを申し上げます。

私たちは、台風18号、記録的な大雪、そして昨年9月の野塚市街地の集中豪雨と、この4年間かつて経験したことのない自然災害と異常気象の脅威に見舞われ、その度に困難を乗り越えながら、自らの日々の備えや穏やかな日常生活の大切さを実感し、また、水道、電気、道路交通網など公共施設が今日の社会

生活にいかんにか大切かを改めて思い知らされてきました。

一方では、文化センターのトイレの清掃や各集会場の修理、道路の草刈りや高齢者の慰問あるいはまた、雪明かりやカラオケ大会、はしご酒大会など新しいイベントへの挑戦など、郷土積丹を愛する町民の皆さんの様々な地域活動「一団体一ボラントピア運動」の輪が町内各地区で広がりを見せ、自らの町は自らの力でという地方自治の精神の新たな息吹を嬉しく感じた年でありました。

町民の皆さんには、厳しさを増す町の財政運営の実情にご理解をいただきながら、そうした多くの困難に耐え、また困難を乗り越えるための英知の結集や実践活動への参加などに数多くのご協力をいただき、心から感謝とお礼を申し上げます。

そしてまた、地方自治体の財政の健全度の公開と財政規律の強化を目的とした新しい法律の制定に伴い、積丹町の財政を心配する町外の多くの方々からの温かい激励やご支援の声に接

し、積丹町と国や道、近隣市町村とが互いに連携と信頼関係を築き、長く保ち続けとの大切さを感じ、しみじみと痛感した一年でもありました。

新しく迎えた平成20年は、長年の大きな防災課題であります。美国川河川改修事業が、年々縮小される国の公共事業予算の下で、町が重要な役割を担ってきました。地積調査事業の計画的な推進を経て、いよいよ北海道が改修工事に必要な用地測量調査に着手できるようになることに大きな期待を寄せております。

そして、この大事業が将来のまちづくりへの夢をつなぐ原動力の一つとなりますように、町民の皆さんのご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。

これまでの開かれた行政の推進と、弛まぬ行財政改革の推進への町民の皆さんのご協力の貴重な成果を糧に、新しい年を町の財政再建元年と位置づけ、確かな第一歩を歩み出すように町民の皆さんと知恵を出し合い、厳しい環境の下での町づくりを全力を尽くしてまいりたいと思っております。

希望に輝く新春を迎え、町民の皆さんのご多幸とご健勝を心から祈念し、念頭のご挨拶いたします。

### 今年の子年

子は、十二支の中で第1番目に数えられます。

一部の地域の除き、地球上に広く分布、生息する鼠(ネズミ)は、その種類も約1、800にも及ぶといわれ、繁殖力が強い動物です。

ことわざにも登場し「窮鼠猫を噛む」や「大山鳴動して鼠一匹」などよく知られていることわざや「鼠がいなくなればその家に火災がある」「鼠が逃げ出すのを見たらその船に乗るなど」といった俗説もあります。

数が多く、農作物や食料を食い荒らすなど決して評判のよくないネズミですが、ことわざや俗説などに例えられるように人間にとつてそれだけ身近な動物といふことでしょう。今年もネズミが逃げ出すような大きな災いが来ないよう、祈りたいものです。

町内の子年生まれの方々は、25人で内訳は次のとおりです。

明治45年生	96歳	3人
大正13年生	84歳	30人
昭和11年生	72歳	55人
昭和23年生	60歳	53人
昭和35年生	48歳	38人
昭和47年生	36歳	31人
昭和59年生	24歳	18人
平成8年生	12歳	24人

平成19年12月20日現在

# 頌春

「積丹に生きるという  
気概をもって」

平成二十年 元旦

積丹町議会議長 岩本幹兒



積丹町の皆様、新年あけましておめでとうございます。

平成20年の新春をお元気で迎えのことと心からお喜び申し上げます。常日頃、皆様の深いご理解と温かいご支援、ご協力を賜り心から感謝とお礼を申し上げます。

現在、地方自治体全体に恩恵をもたらすと期待された地方分権は、いまだ未完の改革で、先行き不透明であり、特に肝心の財政面で何らの改善ももたらさず、三位一体改革などと調子の良いことを謳いながら、本来地

方の財源であるはずの地方交付税を年々どんどん削減し、財政力の弱い積丹町はいくら行財政改革をしても追いつかないというピンチ、ピンチの連続です。

また、「平成の大合併」により合併を余儀なくされた町村は、住民が主体となった地域づくりの面でも、生活の維持という面でも、さらには国土保全の面でもいろいろと問題が噴出してきているのが実態です。

さらには「強いものはより強く、豊かなものはより豊かに」する方向の強化により、貧困問

題や「地域間格差」問題などの所謂「格差」が拡大しております。国の地方切り捨て、弱者切り捨て政策は抜本的に見直ししてもらわなければなりません。

昨年の参議院議員選挙の結果を踏まえて、いくら流れは変わりつつありますが、地方交付税削減の流れは急激に変わることはないだろうと思っております。

そして、少子・高齢化による地域活力の低下が進み、積丹町においても「限界集落」と呼ばれる地域が増えつつあり、そういう地域をどういった方向にも

っていくかということが緊急の課題になりつつあります。地域コミュニティが崩壊しつつあるという差し迫った現実の問題もありません。

しかし、一番こわいのは積丹町に住んでいる皆さまが「虚無感」「無気力」といいますか、この町はどうなってもいいんだという「投げやり」といった意識になっていくことです。

こういった前途多難の中にあっても、少しでも夢と希望のある町づくり、積丹に生きるという気概をもって頑張つてまいりましょう。

積丹町は確かに貧乏な町ですが、裕福だからといって幸福だとは限らないし、貧乏の中にも幸福はあると思います。

このように、今年も積丹町を取り巻く状況は非常に厳しいものがあり、今後も樂觀を許さざるものであります。町議会といたしましてはその役割、責任の重さを強く認識し、議決機関としての責務の遂行に議員一丸となって全力を尽す所存でございます。

町民の皆さまのご健勝とご多幸、さらには平成20年が積丹町にとって夢と希望のもてる年となることを切にご祈念申し上げます。まして新年のご挨拶とさせていただきます。

## 子年の出来事

### 【昭和35年】

- ・ 神威岬灯台が無人大台へ。
- ・ 第9回国勢調査、1、546世帯、8、070人。
- ・ チリ地震に津波来襲、日本国内での死者142人。

### 【昭和47年】

- ・ 積丹海岸の一部が海中公園に指定。
- ・ 町コミュニティセンター完成。
- ・ 第11回冬季オリンピック、札幌で開催。
- ・ 沖縄施政権返還、沖縄県が発足。

### 【昭和59年】

- ・ 町花（エゾカンゾウ）、町木（エゾヤマザクラ）指定。
- ・ 第1回積丹岳ヘリコプタースキーを開催。
- ・ 福沢諭吉（1万円札）、新渡戸稲造（5千円札）、夏目漱石（千円札）の新紙幣が登場。

### 【平成8年】

- ・ 総合文化センター完成。
- ・ 積丹半島周遊国道229号が全線開通。
- ・ 豊浜トンネル崩落事故。
- ・ 0 157による集団食中毒が日本各地で発生。